

SSHマンスリー

スーパーサイエンスハイスクール通信



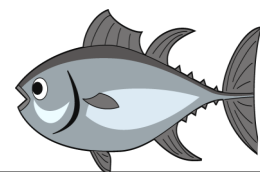
本校OBの 澤田好史 近畿大学教授による 初めての全学年対象特別講演 「マグロを取り巻く世界情勢とマグロ養殖技術開発」

第一回SSH特別講演

昨年三月の特別講演は三年生が卒業した後でしたので、今回が初めての全校対象のSSH行事となります。七月十三日(金)午後に本校卒業生の澤田好史近畿大学農学部水産研究所教授をお招きし御講演いただきました。現在は串本町の大島実験場の場長をされており、ここでは、クロマグロなどについて世界最先端の研究が行われています。二〇〇二年には世界初のクロマグロの完全養殖(卵から育てたマグロが卵を産む)が達成されました。そして、この偉業を基に、マグロの生態や養殖技術から現在の食糧事情(水産事情)まで幅広く御講演下さいました。

マグロは成長が早く、一ミリの受精卵から約三〇時間で三ミリの仔魚が孵化し、卵黄を吸収した仔魚は小動物を捕食(餌がない場合は共食い)して、孵化後二十二日で約三cmに、七十四日で全長約二十五cmに達し、この頃には形態は成魚とほぼ変わらなくな

ります。このように孵化したときは大変小さく、また成長が急激なので、飼育が難しく、そのご苦労等もお話し下さいました。ちなみに十六年で二m、二百キロになるそうです。養殖事業に関しては、日本は世界のマグロの四分の一を消費しておりほとんどが刺身(寿司)用です。マグロ資源はすべて減少か横ばいで、今後は規制がさらに厳しくなる可能性が高く、しかも世界中に寿司屋ができており、ますます日本に入ってくる量が制限されてくるおそれがあります。これらの養殖はすべて天然の幼魚を捕獲して成長させて出荷しているものです。



その他飼料の改良としてリサイクルの魚粉の他、植物由来の飼料等の研究にも取り組んでおられ、究極の目標はマグロをベジタリアンにする

る「グリーンツナプロジェクト」も面白いお話しでした。研究だけではなくこれに続く産業化(ビジネス化)にも力を注いでいるというお話しや、マグロは生態系の頂点にあるので、水銀が蓄積され濃縮され、たくさん水銀を蓄積しています。たくさん食べると人間にも影響が出るお話し。厚生省「妊婦は1週間に二〇〇グラム以上食べるのは勧めない」から、水銀は餌からはいるので、養殖はその点安全であるという、単に味だけではないというところまで、最後まで興味を持てるお話しでした。終了後は、生徒からも質問が出て、丁寧にお答え下さいました。暑い中、熱心にお話しいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。



缶サット甲子園2012

7/15 和歌山地方大会 inコスモパーク加太

今後の予定

7月26・27日	「原子力研修 近畿大学(東大阪市)」
8月 1日	「SSⅠ活動 海南市立下津小学校」
8月6～8日	「夏季特設課外授業 関東研修」
8月7～9日	「平成24年SSH生徒研究発表会 横浜」
8月21・22日	「夏季特設課外授業 紀南研修」
8月22・23日	「夏季特設課外授業 関西播磨研修」

今年も缶サット甲子園の和歌山地方大会に参加してきました。今回はバールンによる落下実験と事前ビデオ・事後プレゼンテーションによる審査がありました。落下実験では一回目は上昇途中で落下し、パラシュートが開き、着地。二回目は、パラシュートが抜けてしまい、地面に墜落し、缶サットは大破。事後プレゼンは一回目のデータを説明して健闘しましたが、十一校中五位となり、残念ながら全国大会の出場は逃してしまいました。

